

仙神宗仙神寺柳山神社

柳山神社大祓全集

高皇產靈大御神

天之御中主大御神

神皇產靈大御神

瓊瓊杵尊

天照大御神

柳山大山祇大山神

不動明王

大日如来

遍照金剛

[illegible]

目次  
主祭神宝号

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| 第壹章 祝詞式次第                        | 二   |
| 降神の儀（こうしんのぎ）                     | 三   |
| 祓祝詞（はらえのりと）                      | 五   |
| 祓祝詞（はらへのりと）                      | 七   |
| 神棚拝詞祝詞（かみだなはいしのりと）               | 七   |
| 大元造化三神報恩之祝詞『現代語訳』                | 八   |
| 大元造化三神報恩之祝詞（だいげんぞうかさんじんほうおんののりと） | 九   |
| 大御神御宝号（おおみかみごほうごう）               | 十一  |
| 拝礼（はいれい）                         | 十一  |
| （ホツマ伝え）天津祓（あまつはらえ）               | 十三  |
| （ホツマ伝え）天津祓（あまつはらえ）の意味            | 十四  |
| 天津祓（あまつはらえ）                      | 十四  |
| 天津祓 吐普加美依身多女の意味                  | 十五  |
| 天津祓（あまつはらえ）                      | 十八  |
| 国津祓（くにつばらい）                      | 十八  |
| 蒼草祓（ひとあおぐさのはらい）                  | 十八  |
| 天津祝詞（あまつのりと）                     | 十九  |
| 柳山山神祓祝詞（やなぎやまやまのかみはらいのりと）        | 二十  |
| 神拝詞（しんばいし）                       | 二十一 |
| 産土神祓祝詞（うぶすなのかみのはらいのりと）           | 二十二 |
| 神言（かみごと）※言霊の大祓祝詞                 | 二十四 |
| 開運祝詞（かいうんのりと）                    | 二十六 |
| 略拝詞（りやくはいし）                      | 二十七 |
| 祖霊拝詞（それいはいし）                     | 二十七 |
| 守護神祝詞（しゅごしんのりと）                  | 二十八 |
| 元津皇大神 報恩之祝詞（もとつすめおおみかみほうおんののりと）  | 二十九 |
| 日本龍神祝詞（にほんりゅうじんのりと）              | 三十  |
| 龍神祝詞（りゅうじんのりと）                   | 三十一 |
| 龍王祝詞（守護神）（りゅうおうのりと）（しゅごしん）       | 三十三 |
| 身滌大祓（みそぎのおおはらい）                  | 三十四 |
| 大祓祝詞（中臣祓）（おおはらいのりと）（なかとみのはらえ）    | 三十五 |
| 大祓祝詞（中臣祓）（おおはらいのりと）（なかとみのはらい）    | 三十八 |

|                                       |        |     |
|---------------------------------------|--------|-----|
| 大祓祝詞（おおはらいのりと）                        | ．．．．．  | 四十三 |
| 六根清浄大祓祝詞（ろつこんしょうじようおおはらいのりと）          | ．．．．．  | 四十七 |
| 先天三種大祓祝詞（せんてんみくさのおおはらいのりと）            | ．．．．．  | 四十八 |
| 三種大祓祝詞（さんしゅおおはらいのりと）                  | ．．．．．  | 四十九 |
| 天地一切清浄祓祝詞（てんちいつさいしいうじようのりと）           | ．．．．．  | 四十九 |
| 一切成就祓（いつさいせいじゅはらい）                    | ．．．．．  | 五十  |
| 奉幣式祝辞祝詞（ほうへいしきしゆくじのりと）                | ．．．．．  | 五十  |
| 元日祝詞（がんじつのりと）※元日に唱える祝詞                | ．．．．．  | 五十一 |
| 祈念祭祝詞（きねんさいのりと）※正月に唱える祝詞              | ．．．．．  | 五十二 |
| 御年神祭祝詞（みとしかみまつりのりと）※正月に唱える祝詞          | ．．．．．  | 五十三 |
| 節分祝詞（せつぶんのりと）※節分に唱える祝詞※節分に唱える祝詞       | ．．．．．  | 五十四 |
| 神饌祝詞（しんせん のりと）※何神においても御供物を奉る時、柏手を八つ打つ | ．．．．．  | 五十六 |
| 神酒祝詞（みきのりと）※神酒を上げる時、柏手を八つ打つこと         | ．．．．．  | 五十七 |
| 潔齋祝詞（きよめののりと）※七五三などの節門時に唱える           | ．．．．．  | 五十七 |
| 鳥居之祓祝詞（とりいのはらいのりと）                    | ．．．．．  | 五十七 |
| 鳥居之祓祝詞（とりいのはらいのりと）                    | ．．．．．  | 五十八 |
| 伊勢内宮神前祝詞（いせないぐうしんぜんのりと）               | ．．．．．  | 五十八 |
| 伊勢外宮神前祝詞（いせとつみやしんぜんのりと）               | ．．．．．  | 五十九 |
| 産生神祓祝詞（うぶすなかみのはらいのりと）                 | ．．．．．  | 六十  |
| 最上祓（さいじようはらい）                         | ．．．．．  | 六十一 |
| 最要祓祝詞（さいようはらいのりと）                     | ．．．．．  | 六十一 |
| 五元之神を拝む辭（ごげんのかみをおがむことば）               | ．．．．．  | 六十二 |
| 先祖霊屋祭辭（せんぞみたまやまつりのことば）                | ．．．．．  | 六十二 |
| 神傳をしへの一言（しんでんをしへのひとこと）                | 【一紙経文】 | 六十三 |
| 大道神祇（だいどうしんぎ）                         | ．．．．．  | 六十四 |
| 大日本国々々ノ宮祝詞（だいにっぽんくにぎにいちのみやのりと）        | ．．．．．  | 六十九 |
| 十種神宝「布瑠の言（ふるのこと）」                     | ．．．．．  | 七十七 |
| 十種神宝大御名（とくさのかんだからのおんみな）               | ．．．．．  | 七十七 |
| 十種神宝祓詞（とくさのかんだからのはらえことば）              | ．．．．．  | 七十八 |
| 十種大祓祝詞（とくさのおおはらいのりと）                  | ．．．．．  | 七十九 |
| 大國神甲子祝文（だいくくしんきのへねしゆくもん）              | ．．．．．  | 八十二 |
| 恵美須神祝詞（ゑみすじんのりと）                      | ．．．．．  | 八十四 |
| 稻荷大明神祓祝詞（いなりだいまようじんはらいのりと）            | ．．．．．  | 八十六 |
| 稻荷大神秘文祝詞（いなりおおかみひもんのりと）               | ．．．．．  | 八十七 |
| 金毘羅神祓祝詞（こんぴらじんはらいのりと）                 | ．．．．．  | 八十八 |

|                                    |                 |      |
|------------------------------------|-----------------|------|
| 天満宮祝文祝詞（てんまんぐうしゆくもんのと）             | ．．．．．           | 八十九  |
| 粟島神巳待祓祝詞（あわしまじんみまちはらいのと）           | ．．．．．           | 九十   |
| 庚申祓祝詞（こうしんのはらいのと）                  | ．．．．．           | 九十二  |
| 鎮火祝詞（ひしづめののと）                      | ．．．．．           | 九十五  |
| 日待之祓祝詞（ひまちはらいのと）                   | ．．．．．           | 九十六  |
| 月待之祓祝詞（つきまちはらいのと）                  | ．．．．．           | 九十七  |
| 地鎮祭招神祝詞（じちんさいしょうじんのと）              | ．．．．．           | 九十八  |
| 地鎮祭祝辞祝詞（じちんさいしゆくじのと）               | ．．．．．           | 九十八  |
| 清祓式開場祝辞祝詞（きよはらいしきかいじょうしゆくじのと）      | ．．．．．           | 九十九  |
| 山神祓祝詞（やまのかみのはらいのと）                 | ．．．．．           | 九十九  |
| 海神祓祝詞（わだつみのはらいのと）                  | ．．．．．           | 百    |
| 船玉祓祝詞（ふなたまのはらいのと）                  | ．．．．．           | 百一   |
| 釜所神祝詞（かまどのかみのと）                    | ．．．．．           | 百二   |
| 竈神祭祝詞（こうじんさいのと）                    | ．．．．．           | 百三   |
| 井戸神祓祝詞（いどのかみはらいのと）                 | ．．．．．           | 百三   |
| 井神祭祝詞（いどのかみまつりのと）                  | ．．．．．           | 百四   |
| 井神祭祝辞祝詞（いのかみまつりしゆくじのと）             | ．．．．．           | 百五   |
| 鉦始祭祝詞（てをのはじめのまつりのと）                | ．．．．．           | 百五   |
| 柱立祝詞（はしらだてのと）                      | ．．．．．           | 百六   |
| 棟祭祝詞（むねのまつりのと）                     | ．．．．．           | 百七   |
| 屋堅之祓祝詞（やがためのはらいのと）                 | ．．．．．           | 百九   |
| 衢神祝詞（ちまたのかみのと）                     | ．．．．．           | 百十一  |
| 障神祭祝詞（さへのかみまつりのと）                  | ．．．．．           | 百十二  |
| 賽神之祝詞（かみあけのと）                      | ．．．．．           | 百十三  |
| 三科祓祝詞（みしなのはらいのと）                   | ．．．．．           | 百十四  |
| 疫神祝詞（えきがみのと）                       | 邪神除祝詞（まかがみじよのと） | 百十四  |
| 疫神祓祝詞（やくじんのはらいのと）                  | ．．．．．           | 百十五  |
| 祈病祝詞（やまひのいのりのと）                    | ．．．．．           | 百十六  |
| 祈病祝詞（やまひのいのりのと）                    | ．．．．．           | 百十七  |
| 病氣平癒祈願祝詞（びようきへいゆきがんのりと）            | ．．．．．           | 百十八  |
| 祈家内安全祝詞（いのりかないあんぜんのと）              | ．．．．．           | 百十九  |
| 祈念祝詞（きねんのりと）                       | ．．．．．           | 百二十  |
| 祈造酒祝詞（いのりぞうしゆのと）                   | ．．．．．           | 百二十一 |
| 雨乞祝詞（あまごいのりと）                      | ．．．．．           | 百二十二 |
| 祖先の靈舎に向て申す詞（とほつおやのみたまやにむかひてもうすことば） | ．．．．．           | 百二十四 |

|                                  |      |
|----------------------------------|------|
| 祖先の靈舎に向て申す詞 略文（りやくぶん）            | 百二十四 |
| 祖廟靈鎮祓祝詞（そびょうたましづめのはらいのりと）        | 百二十五 |
| 神拝之次第（じんはいのしだい）                  | 百二十五 |
| 俗信拝次第（ぞくしんはいのしだい）                | 百二十六 |
| 遥拝祝詞（えうはいのりと）                    | 百二十七 |
| 神供祝詞（しんくのりと）※拍手を打ち、これを唱える。       | 百二十八 |
| 降来要文祝詞（こうらいのようものりと）※神祇を迎い奉るに     | 百二十八 |
| 送納要文祝詞（そふなふようものりと）※本宮へをくり奉るに     | 百二十九 |
| 略神拝次第（りやくじんはいのしだい）               | 百二十九 |
| 御食御酒の祝詞（みけみきののりと）                | 百三十  |
| 神酒祝詞（みきののりと）                     | 百三十一 |
| 天祖神の大道祝詞（おおみかみのかみのみちののりと）二拝二拍手一拝 | 百三十二 |
| 天祖神 賛言（おおみかみたえこと）                | 百三十二 |
| 清大祓（きよめのおおはらい）                   | 百三十二 |
| 一切成就大祓（みななるのおおはらい）               | 百三十三 |
| 三種大祓（みくさのおおはらい）                  | 百三十三 |
| 四魂大祓（よつのおおはらい）                   | 百三十四 |
| 御靈清大祓（みたまきよめのおおはらい）              | 百三十五 |
| 幽界魂清大祓（かくりよのみたまきよめのおおはらい）        | 百三十六 |
| 言靈賛祝詞（ことたまたえののりと）                | 百三十七 |
| 大道祝詞（かみのみちののりと）                  | 百三十九 |
| 感謝祝詞（いやひののりと）                    | 百四十  |
| 一体祝詞（ひとつののりと）                    | 百四十二 |
| 魂新替祝詞（たまあらかえののりと）                | 百四十五 |
| 龍王大神祝詞（りゅうおうおおかみののりと）            | 百四十七 |
| 御祖宗祝詞（みおやののりと）                   | 百四十八 |
| 天災から身を守る言靈（てんさいからみをまもることたま）      | 百四十八 |
| あいうえお祝詞                          | 百四十九 |
| 四十八音祝詞（しじゅうはちおんののりと）             | 百五十  |
| あおうえい祝詞                          | 百五十一 |
| 天の数歌（あまのかずうた）                    | 百五十三 |
| いろは祝詞                            | 百五十三 |
| 天津祝詞の太祝詞事（あまつののりととのふとののりとごと）     | 百五十四 |
| ひふみ祝詞                            | 百五十五 |

|                                 |      |
|---------------------------------|------|
| あわの祝詞・・・・・・・・・・・・・・・・           | 百五十六 |
| 八言の神咒（やことのかじり）【天之御中主大御神の真言】     | 百五十七 |
| 十言の神咒（とことのかじり）【天照大御神の真言】        | 百五十八 |
| 十三言の神咒（とみことのかじり）【天之御中主大御神の真言】   | 百五十九 |
| 天之御中主大御神神咒（あまのみなかぬしのおおみかみかじり）   | 百五十九 |
| 神家故實（しんけのこじつ）                   | 百六十  |
| 神家忌詞内七言外七言（じんかいみことばないしちげんげしちごん） | 百六十  |
| 御幣の作り方（1）                       | 百六十一 |
| 御幣の作り方（2）白川流                    | 百六十四 |
| 御幣の作り方（3）古式                     | 百六十六 |
| 奉幣之式（ほへいのしき）                    | 百六十八 |
| 祓い串、紙垂の作り方                      | 百六十九 |

|                           |      |
|---------------------------|------|
| 第貳章 日々の生活の仕方 瞑想法          | 百七十四 |
| 八正道・三学・五戒・八苦四苦            | 百七十五 |
| 霊格を上げる方法                  | 百七十九 |
| 瞑想の仕方                     | 百八十  |
| 阿字観瞑想用 阿字                 | 百八十三 |
| 和ロソクを使用しない瞑想の仕方           | 百八十四 |
| 内観法                       | 百八十五 |
| 言霊の一番良い唱え方                | 百八十七 |
| 究極の言霊（天之御中主求聞持法）          | 百八十八 |
| 結界の造り方                    | 百八十九 |
| 結界印                       | 百九十  |
| パワースポットの造り方               | 百九十一 |
| 浄化印の色々（浄化印・封印・止之印）        | 百九十二 |
| 九字真言・九字の切り方収め方・九字を戻す法・九字図 | 百九十三 |
| 観想法の除霊法・お祓い               | 百九十八 |
| 不動明王の除霊法・お祓い              | 百九十八 |
| かたかむな健康法・治療法・除霊の仕方        | 百九十九 |
| お焚き上げ法                    | 二百一  |
| 入魂法                       | 二百二  |
| 仏神宗仏神寺柳山神社由来              | 二百三  |
| 著作権侵害について                 | 二百六  |
| 出版社出版日                    | 二百七  |

神仏とは、日々の生活の中で、

自然、風景、日々の事象の中から、

肌で感じ、気配を感じ、第六感で感じ、

全身で感じるものであり、

そして全てを教わる、

それから神仏との対話が始まる。

# 第一章

## 祝詞式次第

先ずは神様をお呼びする。

## 降神の儀（こうしんのぎ）

# 三拝 九拍手

※三拝九拍手（祈念）一拝は、最高神、天之御中主大御神様に捧げる最も良い数である、九は最高の数であるがゆえに、最高神を呼ぶのに最も良い数、九回の拍手打つ。

本当の御名前は、ミナカヌシ様ですが、アメノ、アマノは、総称です。

アメノミナカヌシオオミカミ、アマノミナカヌシオオミカミと呼ばれているが、どちらも正解の呼称であります。

※○印は、鼻から深呼吸して。

○あまのみなかぬしおおみかみ

○あまのみなかぬしおおみかみ

○あまのみなかぬしおおみかみ

とゆっくり三回唱え、

○み    ○み    ○み  
 な    な    な  
 か    か    か  
 ぬ    ぬ    ぬ  
 し    し    し

とゆっくり三回唱えて、唱えた後に、

○オー と、一息でゆっくり唱える。

○オー と、一息でゆっくり唱える。

○オー と、一息でゆっくり唱える。

※みなかぬし と、一息で約(15)秒(約二十一回)唱え×六回唱える事も大事である。

一 拝

※神前に立ち、祝詞を奏上する時、先ず二拝し、次の祓祝詞と神棚拝詞祝詞を奏上する。

## 祓祝詞（はらえのりと）

かけまくも かしこき いざなぎの おおかみ

つくしの ひむかの たちばなの おどの

あわぎはらに みそぎ はらひ たまふ ときに なりませる

※山吹色文字は、読まない、※黒文字だけ読むこと。

※衣服を脱いだ時に成った神々

※杖 つきたつ ふなとの かみ

※袋 ときおかしの かみ

※袴 ちまたの かみ

※左腕輪 おきぎかるの かみ

※左腕輪 おきつかひべらの かみ

※右腕輪 へつなぎさびこの かみ

※潮流の中流で清めた時に、黄泉の国の穢れから成った神々

やそまが つひの かみ おおまが つひの かみ

※その禍を直すために成った神々

※帯 みちの ながちはの かみ

※衣 わつらひの うしの かみ

※冠 あきぐひの うしの かみ

※左腕輪 おくつなぎさびこの かみ

※右腕輪 へぎかるの かみ

※右腕輪 へつかひべらの かみ

かむな おひの かみ おおな おひの かみ いづの めの かみ

※潮流の底で清めた時に、成った神々（上記三神Ⅱ綿津見三神 下記三神Ⅱ住吉三神）

そこつ わたつみの かみ そこつ つのおの かみ

※潮流の中程で清めた時に、成った神々

なかつ わたつみの かみ なかつ つのおの みこと

※潮流の表面で清めた時に、成った神々

うわつ わたつみの かみ うわつ つのおの みこと

※最後に顔を洗った時に成った神々（三柱のうずのみこⅡ三貴子）※黙読する事。

※左目 あまてらす おおみかみ ※右目 つくよみの みこと

※鼻 たけはやすさのおの みこと

はらえど よはしらのかみたちと ともに もろもろの まがこと  
 つみ けがれを はらひ たまひ きよめ たまふと もうす ことを  
 きこしめせと かしこみ かしこみも もおす

※神前に立ち、祝詞を奏上する時、先ず二拝し、次の祓祝詞と神棚拝詞祝詞を奏上する。

## 祓祝詞（はらへのりと）

かけまくもかしこき いざなぎのおおかみ  
つくしのひむかのたちばなの おどの

あわぎはらにみそぎはらひたまひしときに  
なりませるはらへどの にじゅうろくしんの おおかみたち

もろもろの まがごと つみけがれ あらむをば

はらひ たまひ きよめ たまふと まをす ことを

きこしめせと かしこみ かしこみも もおす

## 神棚拝詞祝詞（かみだなはいしのりと）

これの かむどころにます かけまくも かしこき

あまのみなかぬしのおおみかみ たかみむすびのおおみかみ

かむみむすびのおおみかみ あまてらすおおみかみ うぶすなのおおかみ

（いにぎのみこと）

やなぎやまおおやますみおおやまがみたちの

おおまえを おろがみまつりて

かしこみ かしこみも もうさく

おおかみたちの ひろき あつき みめぐみを かたじけなみ まつり  
 たかきたふとき みおしえの まにまに なおき だしきまごころ もちて  
 まことの みちに たがふ ことなく おいもつ わざに はげましめ たまひ  
 いえかど たかくみすこやかに よのためひとのために つくさしめ たまへと  
 かしこみ かしこみも もうす。

## 大元造化三神報恩之祝詞『現代語訳』（だいげんぞうかさんじんほうおんののりと『げんだいごやく』）

言葉に掛けて、申し上げるのも、恐れ多い、天地根源の神様で在らせられる、天之御中主の 大御神、高皇産霊の 大御神、  
 神皇産霊の 大御神達の、不思議で絶妙な、御恩恵によって、この世に生まれ出てきた、我々の、身の上ならば、その御恩恵に、  
 報い奉ろうとして、御称え、申し上げますには、いよいよ高く、底知れぬ、天上界の、幽界を、主宰され、

始めもなく、終わりもなく、盤石に、永遠に、御鎮まりになられて、目には見えない、根源のエネルギーは、百種類に近い、  
 神のエネルギーを、生じ給い、目に見えるものは、昼の世界、夜の世界を、主宰され、またこの地球にあっては、

現代を、生きる人を始め、呼吸をする生き物も、呼吸をしない物も、この世に、ありとあらゆるものの限りを、生み出し給い、  
 支配され、御守り下さり、幸をお与え下さる、ご功績の、偉大で、悠久で、広くて、厚い、大きな愛情を、蒙って、

この現世に、生きている限りは、大御神様達の、元となる、御心そのままに、この真心を尽くさせて、頂いて、怠慢にならず、  
 尊敬し、畏怖の気持ちで、お仕えする様子を、御心も穏やかに、お聞き下さいまして、全世界の人々を、天地の神理に違わせず、

ひら 開けた世の中に、後れることなく、さまざまな災難さいなんが無く、つつがなく、存在そんざいさせて下さり、  
 よる 夜も、昼も、昼夜分ちゅうやわけず、御守おまもり、御恵おめぐみ下さり、幸さいをお授さずけ下さい、と、

おおぞら 大空を、遥はるかに、拜おがませて、頂いたきます、と、申もうし上げます。

## 大元造化三神報恩之祝詞 (だいげんぞうかさんじんほうおんののりと)

※この祝詞は社に向かい唱えるものでなく、無形の空を仰ぎ奏上する祝詞です。

かけまくも いとも かしこき あめつちの もとつかみ

あまのみなかぬしのおおみかみ たかみむすびのおおみかみ

かむみむすびのおおみかみたちの くすしく たえなる

みたまの ふゆによりて この うつしよに あれいでたる みにし あれば

そのもとつ みめぐみに むくい たてまつらむとして

ただへごとを へまつらくは いやたかく そこひなき

たかまのはらの かくりよを しめ たまひ

はじめもなく おわりもなく ときはに かきはに しづまり まし まして

めにみえぬ もとつけは ももたらず やその かみけを なし たまひ

めにみゆるものは ひのみくに つきのみに ほしのみくに

またこれの おおつちに ありては

うつしき あおびとくさを はじめ いきあるも いきなきも よにありとし

あるものの かぎりを うむしいで うしはき まもり さきはえ たまえる  
 みいさおの おおき ひさしき ひろき あつき おおむ いくくしみを  
 かがふりて このうつしよに あらむ かぎりは  
 おおみかみたちの もとつ みこころの まに まにに

この ころを つくして うむことなく  
 この みを つとめて おこたる ことなく

うやまひ かしこみも つかえまつる さまを たひらけく やすらけく  
 きこしめして よよのくにの あおびとぐさをして

あめつちの かみわぎに たがは しめず ひらけ よにおくれ しめず  
 くさぐさの わざわいなく つつがなく あらしめ たまえ

よのまもり ひのまもりに まもり めぐみ さきはえ たまえと  
 みそら はるかに おろがみ まつらくと もおす。

大御神御宝号（おおみかみごほうごう）

あまのみなかぬしおおみかみ

天之御中主大御神

本当の御名前は、ミナカヌシ様ですが、アメノ、アマノは、総称です。  
アメノミナカヌシオオミカミ、アマノミナカヌシオオミカミと呼ばれているが、どちらも正解の呼称であります。  
アマノミナカヌシオオミカミと唱えても、ミナカヌシと唱えても効果あり。

【唱え方】

あまの みな かぬ し おおみかみ とゆっくり三回唱え、みな かぬ し とゆっくり三回唱えて、後は、早口で唱える。  
一息で約15秒、約二十一回唱え×六回・三分・三十分・一時間・二時間・二時間三十分と唱える。

神棚拝詞祝詞の奏上が終わったら、

拝礼（はいれい）

# 三拝 九拍手

## （祈念）一拝

※三拝九拍手（祈念）一拝は、最高神、天之御中主大御神様に捧げる最も良い数である、九は最高の数であるがゆえに、最高神を呼ぶのに最も良い数、九回の拍手打つ。

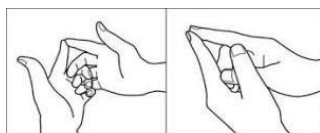
通常は二拝二拍手（祈念）一拝。

(ホツマ伝え) 天津被 (あまつはらえ)

※「とほかみゑひため」の言霊は、願望実現の為の究極の言霊である。一切の罪穢れを被い、福寿をもたらす大被詞の秘詞である。

とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため

天津被い方位別唱え言葉



左図の様に鎮魂印を結ぶ

いちれいかんほど

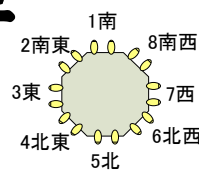
と 一霊感程

1、南を向き

きいつ

み 帰一

2、南東を向き



げんきまんしん

た 元気万進

3、東を向き

かいき

ほ 回帰

4、北東を向き

いっさいまんぎょうしん

ゑ 一切萬行進

5、北を向き

まんぼう

め 萬寶

6、北西を向き

せいめいじょうずほど

か 生命成就程

7、西を向き

しよえん

ひ 所縁

8、南西を向き

※図表に沿って、方位別に唱え言葉を唱える事。

とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため

※クニトコタチは、トコヨクニを造りました、クニトコタチは、八人の御子を各方面に使わしました。八人の御子はクニキミと成り、クニサツチを名乗りました。エノミコト、ヒノミコト、タノミコト、メノミコト、トノミコト、ホノモコト、カノミコト、ミノミコト

この宇宙を開いた御親神みおやかみ（生命の始祖の神せいめい しそ）（天之御中主大御神）が、

とほかみゑひためやまとかみ と言う八元神に守らせている。

○はらひ たまひ ○と ほかみゑひため  
○きよめ たまふ ○と ほかみゑひため  
○めぐみ たまふ ○と ほかみゑひため

## 天津祓（あまつはらえ）

※「とほかみえみため」の言霊は、願望実現の為の究極の言霊である。一切の罪穢れを祓い、福寿をもたらす大祓詞の秘詞である。

とほかみえみため

○はらひ たまひ ○と ほかみゑみため  
○きよめ たまふ ○と ほかみゑみため  
○めぐみ たまふ ○と ほかみゑみため

はらひ たまひ とほかみえみため

きよめ たまふ とほかみえみため

めぐみ たまふ とほかみえみため

(二十遍唱える)

○と ほか み え み た め

祈念

これから、じゅうしょ『住所』せいねんがつぴ『生年月日』しめい『氏名』が、

のぞ望む『願い事』が、ねがごと

かみさまきせき ちからしめい あた神様の奇跡の力によって、『氏名』に与えられました。

ふかふか こころこころ かんしゃかんしゃ ありがとありがとうございます。有難うございました。

天之御中主大御神様

いつも奇跡の力で、私に恵みを頂き、誠にありがとうございます。(三遍)

【と】水の神    【ほ】火の神    【かみ】木の神    【えみ】金の神    【ため】土の神

『と』全ての事が成っていく象意、先も安定    『ほ』水蒸気が立ち上がる勢いのある象意

『か』陽気、運氣強く盛ん、神の助けあり    『み』物事が始まる象意

『え』陽氣盛んで、幸運を得る象意

『た』木の行き通う象意、男女の愛和

『め』ものの象意をそのまま表す象意

と言われる。はらいたまえ、きよめたまう、めぐみたまう、を別にして、とほかみえみためを唱える回数、二十一回とか四十回唱えないといけないと言われているが、私が思うに、人には、五人の守護霊つまりは魂の兄弟がいるので、五人×九回＝四十五回十ゆつくりと自分の分一回の合計五十四回唱えないといけない。つまりは、自分を守ってくれている魂に捧げるのである。葬儀、年忌の場合は、その人がお亡くなりになり、六人があの世に行っている状態なので、六人×九回＝五十四回同じ速さで唱える。ようは、誰の為に、とはかみえみためを唱えるのかによって、速さや唱える回数が違ってくる。

とほかみ とは、

とほつみおやかみ せんぞがみ  
遠津御祖神（先祖神）

と かみ ことあまつかみ くにう かみ さんきし  
十の神（別天津神・国生みの神・三貴子）

ことあまつかみ  
別天津神とは、

あまのみなかぬしおおみかみ たかみむすびおおみかみ かむみむすびおおみかみ  
天之御中主大御神・高皇産霊大御神・神皇産霊大御神・

うましあしかびひこぢかみ あまのとたちかみ  
宇摩志阿斯訶備比古遲神・天之常立神

くにう かみ  
国生みの神とは、

いざなみのみこと  
伊邪那美之命・伊邪那岐之命

さんぎし  
三貴子とは、

あまてらすおおみかみ つくよみのみこと すさのおのみこと  
天照大御神・月読之命・須佐之男命

えみため とは、

感謝しています。微笑んで下さい。

とほかみえみためとは、御先祖の神様、十の神様、感謝しています。  
微笑んで下さい。となる。

天津被 (あまつはらえ)

吐 普 加 美 依 身 多 女

国津被 (くにつばらい)

寒 言 神 尊 利 魂 陀 見

蒼草被 (ひとあおくさのはらい)

波 羅 伊 玉 意 喜 餘 目 出 玉 登

## 天津祝詞（あまつのりと）

たかまのはらに かむづまります

かむろぎ かむろみの みこと もちて

すめみ おやかむ いざなぎの みこと

つくしの ひむかの たちばなの おどの

あわぎはらに みそぎ はらひ たまふ ときに

あれませる はらへどの にじゅうろくしんの おおかみたち

もろもろの まがごと つみ けがれを

はらひ たまひ きよめ たまふと もおす ことの よしを

あまつかみ くにつかみ やおよろずの かみたちと ともに

あまの ふちごまの みみ ふりたてて

きこしめせと かしこみ かしこみ もおす。

# 柳山山神祓祝詞

(やなぎやまやまのかみはらいのりと)

たかまのはらに かみとどまり まします

すめむつ かみろぎ かみろみの みことを もちて

さつませんたいしの やま たはたを おまもり くださり

おおくの やまの さちを おめぐみ くださる

たかえのちに そびえたつ やなぎやまに すまわれる

やなぎやまおおやますみおおやまがみを たてまつりて

あをとのにきて みもと

しらとのにきて みもとを ひとつらに おきたてて

くさぐさの そなえもの おき たかなして

かみほぎに みほぎ たまへば はや きこしめして

あしきこと とが たたりは あらじものをと

はらひ たまひ きよめ たまふ よしを

やおよろづの かみたち もろともに きこしめせと もうす。